

学習指導案の初めには、単元設定の理由をおおよそ子ども観・教材観・指導観^(注)(道徳は子ども観・価値観・資料観・指導観)から書いてきた。なぜ、この単元を設定したのか、学校や学年で求める子どもの姿から書くことが重要であろう。

子ども観・教材観・指導観のほか、この「観」が付く言葉が教育界には多く、常に教師の見方や考え方を問われる。どのような観に立って子どもたちを考えるか、観はその教師の「論」に影響していく。当然であるが、肯定的な子ども観に立つか、否定的な子ども観に立つかによって、次の論が展開される。

本来、授業レベルの観は、学校レベルの観とつながっていることが大切である。つまり、校長の観と論があって、授業者の観と論が展開できる。これが学校づくりの基本となろう。今の学校現場ではどうであろうか。校長の学校観・学校経営観などがどれだけ開かれ、論が展開されているだろうか。校長が書いている学校だよりやホームページの内容はどうであろうか。注目されている全国学力・学習状況調査の結果も、校長の観に立脚されているだろうか。

さらに、気になっている。校長の観と論が外ばかりに向いて開かれていないか。説明責任の名のもと、保護者や地域に意識が行き過ぎ、内なる教職員に校長の観と論が開かれているだろうか。最低月に1回はある職員会議に、校長の学校観・学校経営観に立った論を展開してほしい。現在の校長の観と論を内に開いてこそ、他の教職員の子どもたちにかかわる観と論が決まっていく。学校経営者の最高責任者としての校長の観の重要性を改めて問い直したい。(芝)

かん【観】

- 1 外から見たようすや感じ。外見。
- 2 仏語。真理を観じること。物事を細心に分別して観察し、道理を悟ること。

まず、内に「観」をお互い開くこと。開き合う抵抗をなくしていこう。

学習指導案における「観」

- 子ども観 本単位につながる学習経験や興味・関心からみた実態や学習の仕方、研究主題・サブテーマにかかわること等の子どものレディネスをできるだけプラス思考で記述する。また、子ども観を初めに書く意味を考えると、以下の教材観・指導観に児童を主体にする考えが書かれることが大切である。
- 教材観 ここでは、材を教材・学習材に変換させる時の指導者の基本的な考え方が明確に書かれていることが望ましい。各学年の発達特性を加味しながら、理解させたい基礎的・基本的事項や育てたい能力・態度をどのように考えているかを記述する。とりわけ、本単元がもつ価値や意味を子どもの側で考えたい。
- 指導観 研究課題に対して指導者が答えだと考えていることやその答えを導いたわけを書く。つまり、主体的な学びを保障したり、本単元を通して発揮させたい資質や能力を生み出したりする工夫・支援を中心に示す。また、本時や単元の流れにならないように注意する。